

411) ペンキ

この猫はとにかく人のそばを離れることがなく、ある日小生が昔とったキネヅカとやらで、家の窓枠にペンキを塗っていると、どういうわけか水溶性のペンキの匂いをやたらとかぎたがるのであります。どうやら飼い主の我輩のことを親だと思っているようで、親のやることはなんでも一当たり真似してみたいらしい。そうこうしているうち、とうとうペンキの缶をひっくり返してしまったのであります。猫の餌入れのとなりにペンキの缶があって、猫の餌入れには蠅が来るものだから猫は蠅を捕まえようとして、力余ってペンキの缶をひっくり返したと言うわけがあります。おまけに猫はびっくりして飛び跳ねたものだから、鼻面と左手と左足が鮮やかな水色に染まって、なんとも珍しい猫になってしまったのであります。いっそう全身を水色に染めてみたら、高値で売れたかも知れないのでありますが、それにしてもこの猫を鈴木さんが見たらどう思うだろうか。小生としてはちょっと楽しみなのであります。